

E221-P017

会場: ポスター会場

時間: 5月17日

上宝火砕流堆積物の古地磁気方位と古地磁気強度：約59万年前の Calabrian Ridge 3 エクスカーションに関係して

Remanent direction and paleointensity of welded tuff in central Japan related to the 580-605 ka Calabrian Ridge 3 excursion

植木 岳雪 [1]

Takeyuki Ueki[1]

[1] 産総研・地質情報

[1] GSJ/AIST

上宝火砕流堆積物 (KMT) は、58~69万年前に中部日本で噴出したデイサイト質の溶結凝灰岩である。KMTの古地磁気方位は、12~50度の偏角と45~55度の伏角を持つ。テリ工法によるKMTの古地磁気強度は、17~27マイクロテスラであった。このような東向き古地磁気方位と弱い古地磁気強度は、KMTが地磁気エクスカッション時に噴出したことを示唆する。放射年代を考慮すると、それは58~60.5万年前の Calabrian Ridge 3 エクスカーションと考えられる。